

## 《第 24 号》「不都合な生活？」

古林わか子(武蔵野市環境政策専門委員)

先日見た映画「不都合な真実」で印象に残っているのは、アル・ゴア氏の講演を聞く聴衆の顔だ。皮肉を込めて迫力充分に語られる重い事実を、まるで冒険談を聞いているかのように目を輝かせて聞いていた。彼らのうち何人が自宅に帰って環境配慮に励むのかは疑問だが、大切なのは「気づききっかけ」だと思う。

温暖化防止を訴えるのが私の仕事だが、地球温暖化、持続可能、京都議定書、環境基本計画・・・この重い言葉にめげていた。見ただけで胸が一杯になりそうな難しげな漢字熟語。その無効には苦行僧のような「不都合な」生活が待っていそうで、できたら知らないで済ませたい、と思う人が多いに違いないと。

そんな中、巡り合ったのが地球温暖化防止・省エネ連絡会の省エネ伝道師プロジェクトだった。小さな勉強会で出会ったセミナーは市の共催事業となり、環境団体、老社会、コミュニティセンター等へとネットワークがつながり、5日会の開催で200人以上が参加した。ひたむきに訴える若い伝道師の地球温暖化や省エネの話を、参加者は真剣に受け止め、「30年前の生活に戻れないが、今の生活にひと工夫加えて省エネすることならできる。それが温暖化防止につながるとわかった」と好評だった。その後、何人かの参加者に「省エネタブを買ったよ」と報告された。環境政策課ではエコワット(簡易型電力量表示器)の貸し出し事業を開始、測定実験を楽しむ市民が増えた。伝道師が、「気づききっかけ」をくれたと感謝し、また期待もしている。

この時代「暖房便座やウォッシュレットをやめろ!」とは言わない。が、「寝る前や外出時には必ず電源を切ろう!」と伝えたい。

以上